

第101回 日本美容外科学会のご案内

◆会期:2013年6月15日(土)・16日(日)

◆会場:東京ビッグサイト 会議棟1F

〒135-0063東京都江東区有明3-11-1 TEL:03-5530-1111 (代表) http://www.bigsight.jp/

◆テーマ:一党一派にこだわらず、開業医と若い世代の未来を考えた学会を目指して…

◆演題募集要項(全て日本語・英語を併記してください) 抄録提出期限:2013年3月31日 ※採否の通知:採否は後日通知致します。

1.発表者氏名(ふりがな) 2.医療機関名 3.医療機関所在地 4.演題名 5.抄録(和文800字、英文300語、併記) 6.連絡先住所・電話番号・FAX番号・メールアドレス
※1から5は学会の前に発送されるプログラム・抄録に掲載されます。※共同発表の場合には、演者名に下線を付してください。※演題発表の申込みは、学会の参加登録をした場合に限り受け付けます。
使用機材:コンピュータプレゼンテーションのみ可能。データをUSBメモリまたはCD、DVD等に入れてお持ち下さい。
演者発表時間:10分(演題発表の7分、前演者との交代時間&質疑応答等の時間として3分設けます)

◆参加申込方法

参加を希望される方は事務局までお問い合わせください。

◆参加費用

※参加費に含まれるもの:学術集会および展示会への参加、ランチョンセミナー、コーヒーブレイク、懇親会を含む
2013年5月15日まで 医師(歯科医師を含む) 20,000円、一般参加者(医師・歯科医師を除く) 10,000円
2013年5月16日以降 医師(歯科医師を含む) 30,000円、一般参加者(医師・歯科医師を除く) 15,000円

◆企業展示について

企業展示事務局(株式会社A2project Tel.: 03-3556-0930 Fax: 03-3556-0940 e-mail:jsas@a2project.net 担当:富田)にお問い合わせください。

◆事務局:日本美容外科学会事務局

〒104-0061東京都中央区銀座8-10-8 銀座8丁目10番ビル6階 Tel.: 03-3571-1270 Fax: 03-3571-3116 e-mail:jsas@mac.com 担当:田口 順一郎



東京ビッグサイト(東京都江東区)

協賛企業一覧

MSD 株式会社	バロマ ジャパン 株式会社	ジェイ・ヒューイット 株式会社
キャンデラ 株式会社	株式会社 プロ・フィールド	クレシオ 株式会社
株式会社 メディカルロジック	ハルテック 株式会社	株式会社 チャールズラボラトリーズ
株式会社 アブソルート	株式会社 カキヌマメディカル	キュテラ 株式会社
サイトン社	エスピオジャパン 株式会社	FORCLINIC
ジェイシス ジャパン 株式会社	株式会社 オーシーメディック	メディカランド 株式会社
株式会社 イリョーキ	株式会社 エスエス・ファシリティーズ	TMSC 株式会社
株式会社 ウェルハート	エアロサービス 株式会社	株式会社 日本美容科学
株式会社 ellman-Japan	メトラス 株式会社	ワイズ・インターナショナル 株式会社
株式会社 文光堂書店	株式会社 メディケード	マーベラスビューティージャパン 株式会社
PRSS JAPAN 株式会社	ライズネット 株式会社	アラガン・ジャパン 株式会社
SOLROS 株式会社	ハンス バイオメド 株式会社	株式会社 レザック
株式会社 総見	株式会社 アイル	

※順不同

当学会員開設の下記クリニックで美容外科医師を募集しています。待遇等詳細については各クリニックに直接連絡とって下さい。

城本クリニック

形成外科学会専門医相当もしくはそれ以上の技術を有する者に限る
0120-107-929 採用担当
勤務地 全国主要都市

ザ・クリニック

新院開設に伴い、名古屋、横浜その他、全国主要都市の院長候補を募集します。
問合せ、勤務地につきましては
03-5772-1508 人事担当
勤務地 全国主要都市

湘南美容外科

院内見学承っております
03-5325-6272 人事担当
勤務地 全国主要都市

品川美容外科

未経験の方も親切に指導いたします
03-5715-2087 人事課
勤務地 全国主要都市

共立美容外科クリニック

大阪院(大阪市中央区西心斎橋1-1-13) 固定給 or 歩合給相談可
未経験の方も親切に指導いたします
03-5354-0707 採用担当: 畠山
勤務地 全国主要都市

求む!

学会運営活動に協力していただける会員を求めています。
月に1回、2~3時間程度です。開かれた学会運営のため多くの美容外科医の意思が反映できることを目的に、全員参加型を目指しています。ぜひともご協力をお願いします。
詳細は事務局までお電話・FAXかメールでお願いします。

事務局へのご連絡やお問い合わせについて

本紙は学会以外の先生方にもお送りしておりますので、会員の先生が事務局へご連絡またはお問い合わせをされる際は、必ず宛名ラベル記載の会員番号をご記入ください。



日本美容外科学会新聞

JAPAN SOCIETY OF AESTHETIC SURGERY
JAPAN FOUNDATION OF AESTHETIC MEDICINE

日本美容外科学会
公式新聞

今月号の
主なお知らせ

プレストインプラント使用ガイド
ラインについて

2013年
1月26日(土)
第002号

財団法人 日本美容医学研究会
日本美容外科学会事務局
〒104-0061 東京都中央区銀座
8-10-8 銀座8丁目10番ビル6階
Tel.03-3571-1270

2013年6月15日(土)・16日(日)

第101回 日本美容外科学会 講演者紹介



Dr. Brian Kinney (U.S.A.)

- ・プレスト豊胸術の講演
- ・プレストのパネルディスカッションのパネラー
- ・FLのパネルディスカッションのパネラー

Dr. Kinney is a staff member of many major hospitals in West Los Angeles, such as St. John's Hospital and Health Center, Cedars-Sinai Medical Center and Olympia Medical Center. He has been a member and served as an officer in many professional and medical organizations, which include the following: President, Plastic Surgery Educational Foundation of the US (PSEF)



Dr. Giovanni Botti (Italy)

- ・顔の脂肪注入の講演
- ・顔の脂肪注入のパネルディスカッションのパネラー
- ・プレストのパネルディスカッションのパネラー
- ・FLの講演
- ・FLのパネルディスカッションのパネラー

Dr. Giovanni Botti is one of the most important Italian figures in aesthetic surgery. He is the director of his own clinic, Villa Bella, which is one of the most advanced aesthetic clinic among Europe.



Dr. Javier DE Benito (SPAIN)

- ・プレストの講演
- ・プレストのパネルディスカッションのパネラー
- ・FLの講演"Application of Sutures With Cones in Aesthetic Medicine and Surgery"
- ・FLのパネルディスカッションのパネラー

形成外科、美容外科医
国際形成外科学会(ISAPS)元会長



Dr. Kevin Metz Keller (U.S.A.)

- ・プレストの講演 (KellerFunnelについて)
- ・プレストのパネルディスカッションのパネラー

Society Memberships:
American Society of Plastic and Reconstructive Surgery
Southeastern Society of Plastic and Reconstructive Surgery
South Carolina Society of Plastic Surgery



Dr. Mark Berman (U.S.A.)

- ・顔の脂肪注入の講演
- ・顔の脂肪注入のパネルディスカッションのパネラー
- ・プレストのパネルディスカッションのパネラー
- ・ランチョンセミナー: 脂肪幹細胞注入について

Diplomate - American Board of Cosmetic Surgery
Diplomate - American Board of Otolaryngology



Dr. Lim Jong-hak (Korea)

Work as a fellow at Department of Plastic Surgery and Dermatology, College of Medicine, Osaka University in Osaka, Japan
Inviting Instructor at Dept. of Anatomy, College of Medicine, Ehime University in Matsuyama, Japan-Past Honorary President of Korean Society of Aesthetic Surgery
President of Korea Academy of Aesthetic Surgery & Medicine
Director of Kairos Aesthetic Clinic in Seoul, Korea



Dr. Jung Kwang Seup (Korea)

President of Bonita Plastic Surgery Clinic / Aesthetic Clinic
2008~ 2012. 4: The President, Korean Society of Aesthetic Surgery.
2012~ Present: The President, Asia Forum for Aesthetic Surgery & Medicine

小林 弘幸

平成21年 東京医師会理事
順天堂大学医学部附属順天堂医院・救急プライマリーケアセンター 副センター長

医療訴訟の現状と対策 ~今、開業医が狙われている~ 守りの美学
近年、医療訴訟の件数は減少傾向にあるものの、未だ示談の件数等は増加の傾向にある。特に、昨今、委縮医療が懸念されており、その背景としてインフォームドコンセントのあり方、救急時の対応等の理解がされていないのが現状である。そこで、今回は、完璧なインフォームドコンセントはどのようなものか、救急時の対応でなにが大切か、モニターベジエントの対応は? など、日ごろ現場で起きている事象について、また、「明日は我が身」の医療訴訟の現状の中で、何が大切かを解説する。

渡辺 智志 弁護士

略歴
学習院大学卒業
千葉市内の法律事務所所属した後、九十九里法律事務所設立
千葉県弁護士会民事介入暴力被害者救済センター委員
千葉県弁護士会刑事弁護センター委員
千葉県弁護士会法律扶助委員会委員

講演の内容

1. 美容外科学会の合併についての問題点
→ 対等合併の法的意味合いと非対等合併の場合におけるデメリット
① 対等合併の意義
組織、発言の機会、及び影響力
② 非対等合併の場合におけるデメリット
発言・影響力の低下により、これまで以上の新規規制及び規制強化
2. 美容外科学会と美容外科専門医制度の関係
① 美容外科専門医制度について
② 美容外科専門医と認定されることの意義
③ 美容外科専門医認定と医療広告との関係について
④ 美容外科専門医認定と医師の診療科目(美容外科) 標榜との関係について
⑤ 美容外科専門医認定と美容医療機器の利用との関係について

●ブレスト・インプラント使用ガイドライン(案)について●

昨12月20日に梅澤理事長あてに日本形成外科学会から下記ガイドライン案が示され、同意と参加を求められました。

以下、日本形成外科学会案です。

外傷・先天異常に対する乳房再建術および乳房増大術に用いるゲル充填人工乳房(ブレストインプラント)使用基準案

適用範囲：国内において薬事承認を受けたゲル充填人工乳房

1. 適応基準

1-A. 対象

乳房増大術の場合は、成人女性。

1-B. 選択基準(術前において、以下のすべてを満たすこと)

i) 患者がブレストインプラント(以下インプラント)による乳房再建術または乳房増大術を希望していること。

ii) インプラントは半永久的なものではなく、経過中破損することもあり、摘出や新たなインプラントや自家組織への入れ替えが必要であることを理解していること。

iii) インプラントの変形や破損などがないかを調べる目的で、約2年に一度はMRI・超音波検査などの検査を行うことを含めて、最低10年間は診察を行う必要があることを理解していること。

iv) 人工物であるインプラントを挿入することで起こりうる合併症や不利益などを理解し、連結可能匿名化された症例の全国登録に関して書面による同意が得られること。

1-C. 除外基準

- 乳癌の疑いのある症例。
- 活動性の感染のある症例。
- 妊娠中あるいは授乳中の症例。
- 局所の血行不全や薬剤の影響、その他創傷治癒が阻害される状態をもつ症例。
- 精神疾患等で不相当と判断される症例。
- その他担当医が不相当と判断した症例。

2. 実施医師基準(以下のすべてを満たすこと)

i) 日本形成外科学会認定の形成外科専門医または日本美容外科学会(JSAPS, JSAS)認定の専門医、およびそれらの専門医の指導下で研修を行う医師。

ii) 日本形成外科学会が主催・認定する講習会を受講し、インプラント使用方法や注意点について理解している医師。

3. 実施施設基準

2.で示す実施医師基準を満たす形成外科専門医または美容外科専門医が常勤で所属している施設。

4. 症例の登録

実施施設の責任医師(常勤)は、日本形成

外科学会ブレストインプラント登録委員会(仮称)に対して、年度ごとに手術実施症例の背景、使用したインプラントの品番、合併症の有無と内容、転帰などについて登録を行うこと。

5. 症例の経過観察

手術実施患者については、最低10年間は経過観察を行うこと。約2年に1度はMRIや超音波検査などの検査を行ってインプラントの状態を確認し、新たな合併症が生じた場合には速やかに日本形成外科学会ブレストインプラント登録委員会に対して報告を行うこと。

6. 実施にあたっての留意事項

i) 術前の計測により最も適したインプラントを選択する。インプラントを使用する場合、被膜拘縮を防止するためにはスムーズタイプのインプラントよりもテクスチャードタイプのインプラントを選択する方が望ましいとされている。

ii) インプラントは大胸筋下、大胸筋膜下、または乳腺下の層に挿入する。

7. 付帯事項

この基準は3年毎に見直すものとするが、状況に応じて随時改訂を行う。

◇早速、担当役員を招集し、内容をチェックしましたところ、アンダーラインの部分の特に当学会員にとって極めて不利で納得のいかない内容となっており、このままでは参加できないことを申し合わせ、加えてこれなら参加できるという当学会案を急ぎ作成しました。

そうしている間に日本形成外科学会の大慈弥先生から梅澤理事長あてに当学会に1月18日においてになるという連絡があり、当日下記のとおり学会事務局で話し合いを持ちました。

◇日本形成外科学会ブレスト・インプラントガイドライン作成委員長大慈弥裕之先生(以下敬称略)、厚生労働省医薬食品局医療機器審査管理室長(以下敬称略厚労省という)、同先進医療機器審査調整官の3人が来訪され、当日梅澤会頭が所用のため代理委任を受けた真崎101回会長らが応対し、ブレスト・インプラント使用に関するガイドライン作成について、話し合いが持たれましたので会員諸氏にあらましを報告します。

◎厚労省 そもそも論として、新しい医療機器を薬事承認する前段として、市場に出た場合に適切に使われるかについて関係学会と協力してルールを作って、品質と安全性を確保しようとするものです。

これを使用するであろう関係学会のすべてに参加協力してもらって作っていききたい。

これはアラガン社の製品だが今後も他社から申請が出てくるであろうから、この際きちっとしたルールを作っていただきたい。

◇大慈弥 JSASも5学会共通ガイドライン作成に協力下さい。

◎真崎 この案での実施医師の条件について賛同できません。理由は、外科系である以上は症例数が重要と考えています。形成外科専門医といっても全くと言っていいほどの手術経験のない先生に使用が認められて、何千症例も実績のある美容外科非専門医の先生に使わせないというのは納得いかないし、JSASの美容外科専門医は26人で600人の中でわずか4%に過ぎず大半の美容外科医師を排除する案には賛同できません。

◎真崎 個人輸入が出来なくなるという噂を聞いた事があるが、それはどうなのか。

◎厚労省 個人輸入は今まで通りできます。

◎厚労省 乳房再建については保険適用申請がなされている。

◇大慈弥 承認されれば大学でも使えるようになるので、患者さんにとって喜ばしい。

◎真崎 再建と豊胸は違いがあります。再建については大学にお任せしますし、口を出すつもりもまったくありません。しかし豊胸は当学会の開業医のところで行われているのが大半です。お互いの強みと弱みを相互に補完し合う連携関係が望ましいと考えています。そうした意味でも形成の先生方と今後ますます仲良くお付き合いをさせていただきたいと願っています。

◎厚労省 JSASの案を出していただきたい。

◎真崎 原案を渡しました。<右ページに掲載>

◎厚労省 JSASとしてこの作成に協力してもらいたい。時間的に厳しいがよろしく。

◎真崎 長年美容医療に携わってきた当学会員に不利益の及ばないような基準にすべく、そして何より患者さんのために一番良い医療を提供するのがいいと思いますので、そのためなら協力を惜しみません。

以上の流れから、今後当学会として正式に話し合いに参加することとなりました。

●ブレスト・インプラント使用ガイドライン(案)について●

以下に梅澤理事長の下で作成した当学会案(草案)をお示ししますので、会員各位におかれましては忌憚ないご意見を事務局宛てにお寄せ下さい。(会員番号を忘れずをお願いします)

外傷・先天異常に対する乳房再建術および乳房増大術に用いるゲル充填人工乳房使用基準案
適用範囲：国内において薬事承認を受けたゲル充填人工乳房(厚労省認可のアラガン社製のラウンド(110)タイプのブレストインプラントに限る)

1. 適応基準

1-A. 対象

乳房増大術の場合は、成人。

1-B. 選択基準(術前において、以下のすべてを満たすこと)

i) 患者がブレストインプラント(以下インプラント)による乳房再建術または乳房増大術を希望していること。

ii) インプラントは半永久的なものではなく、経過中破損することもあり、摘出や新たなインプラントや自家組織への入れ替えが必要であることを理解していること。

iii) インプラントの変形や破損などがないかを調べる目的で、約2年に一度は診察を行うことを含めて、最低10年間は経過観察を行う必要があることを理解し

ていること。

iv) 人工物であるインプラントを挿入することで起こりうる合併症や不利益などを理解し、連結可能匿名化された症例の全国登録に関して書面による同意が得られること。

1-C. 除外基準 …… 変更なし

2. 実施医師基準(以下のいずれかを満たすこと)

i) 100 症例以上の乳房再建術または乳房増大術の経験を持つ医師、およびその指導下で研修を行う医師。

ii) 日本形成外科学会、もしくはJSASが主催・認定する講習会を受講し、インプラント使用方法や注意点について理解している医師。

4. 症例の登録

実施施設の責任医師(常勤)は、日本形成外科学会ブレストインプラント登録委員会(仮称)、JSASのブレストインプラント登録委員会(仮称)に対して、年度ごとに手術実施症例の背景、使用したインプラントの品番、合併症の有無と内容、転帰などについて登録を行

うこと。

5. 症例の経過観察

手術実施患者については、最低10年間は経過観察を行うこと。約2年に1度は診察を行ってインプラントの状態を確認し、新たな合併症が生じた場合には速やかに日本形成外科学会ブレストインプラント登録委員会、もしくは、JSASのブレストインプラント登録委員会(仮称)に対して報告を行うこと。

6. 実施にあたっての留意事項

i) ドライアプローチに留意する事。
ii) 術前の診断評価(計測)により最も適したインプラントを選択する。
iii) スムースタイプとテクスチャードタイプの特徴を熟知し選択する事。

7. 付帯事項

この基準は3年毎に見直すものとするが、状況に応じて随時改訂を行う。

当学会案は、学会の4%に過ぎない26名の専門医だけでなく、すべてのJSAS会員がブレストインプラントを使用できる道が開けています。

弁護士さんに聞いてみよう!

回答:渡辺 智志 弁護士

Q1. 学会存在のためには2つの学会の合併が絶対条件(不可避)なのですか?

A. 今般の合併問題は専門医を広告できるようにするための外形基準を満たすべくJSAPS側からアプローチがあったもので不公平な条件付き提案であったと伺っています。そもそも2つの同じ名前の学会が存在することは一般人感覚では考えられませんが、法的にはまったく制限を受けませんので、理論的には幾つでもできます。つまり可能な限り、それぞれが存在し続けることになり。一方で、対所管省庁との関係性となりますと統一が望まれるでしょうし、一般国民からみて不自然です。当職としては、歴史あるJSASが先輩格としてJSPASと協議を持ちかけ、対等合併されることが望ましいと考えます。存続と合併は全く別問題と認識してください。

Q2. 美容外科では日常的なことです。厚労省未承認の医薬品、機器を使う際に気を付けなければならない法的問題点を教えてください。

A. 医師法及び薬事法上、医師が患者の治療のために未承認の医薬品等を使用することは禁止されていません。したがって、厚労省未承認であっても、国外での実績などを参考に医師自らの判断で採用、使用することは認められています。また、薬事法は未承認医薬品等の広告を禁止していますが、院内で患者に説明することや当該医薬品等のデータや資料を提供することは禁止されていません。もっとも、美容目的の医療行為については、通常の診療行為よりも、いっそう医師の説明義務は加重されるので、未承認の医薬品等を選択する際にも十分な注意が必要です。

◆ 会員の皆様からのご質問を受付けております。事務局までご連絡ください。(会員番号を忘れずをお願いします) ◆

会員の声

1

学会専門医認定の条件を見直してはどうか。

①厚労省(平成19年厚生労働省告示108号)の基準によると5年以上の研修が条件と定められている。当学会は定款で7年以上と定めてある。昭和41年発足以来40年以上この基準で認定審査が行われてきたが、これまでにこの基準を満たし、認定されたのはわずか30人だけであり、時代に即していないとの指摘が多い。

②他学会に比して、学会発表条件が厳しすぎるので緩和すべきだ。学問的な知識もさることながら美容外科専門医として認定するためには特に臨床経験が重要ではないか。主だった美容外科手術の症例数を条件に加えることで、幅広い厚みのある専門医となると思う。

③認定審査に公正な試験制度を設けるべきだ。

会員参加を増やす活動をしてはどうか。

①実際に美容外科を標榜している医師が10年間で5割も増えているのに当学会の会員数が増えないのは、魅力とメリットが少ないのではないかと。もっと積極的に情報を発信し、会員参加を求める活動を増やすなど活発化して欲しい。

● 会員の皆様からの声を募集しております。事務局までお寄せください。

THE Voice